



収受年月日	議長	事務局長	書記
5.12./			
第 80 号			



令和 5 年 12 月 1 日

埴町議会議長 割貝 寿一 様

総務常任委員会委員長 下重 義人



## 委員派遣結果報告書

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施したので、その結果を報告します。

### 記

- 1 目的  神山町行政視察について
- 2 経過
  - (1) 派遣期間  令和 5 年 11 月 6 日 (月) ～8 日 (水)
  - (2) 派遣先  徳島県神山町
- 3 派遣委員
 

下重義人、吉村守広、藤田一男、吉田克則、青砥與蔵、  
菊地哲也、鈴木孝則

(随行者：議会事務局長、書記)
- 4 視察内容
  - ・神山町創生戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」について
  - ・移住交流事業・サテライトオフィスの取り組みについて
- 5 結果

#### (1) 所見

神山町は 10 月 1 日現在の人口 4,817 人、65 歳以上の人口が 54.41%、町の 86% が森林で、スダチの生産が日本一の農業、林業の町である。

神山町は地方創生の先進地、過疎地活性化の成功事例として全国的に注目されている。例として、14 社がサテライトオフィスを神山町に構えている。また、国内外のアーティスト数名が町に滞在しながら作品を制作し、展覧会を開く「神山アーティスト・イン・レジデンス」は 1999 年から続いている。また、移住交流支援センターを設置し移住定住者を支援し令和 5 年度までに 214 世帯、369 人が移住している。そして 4 月には「私立神山まるごと高等専門学校」高専が開校するなど、町を次世代へつなぐ施策を積極的に行っている。

転機となったのは光ファイバー網の整備により、インターネットが都会と田舎の情報格差が解消され、サテライトオフィスの開設が進んだとのことである。インターネットを活用し積極的に神山町の情報を発信することによって町で行われているプロジェクトが町外に広まっていき、興味を持った人が神山町に集まり、さらにその方々が町の情報を発信していくという良い循環ができていると思われた。

神山町では、2015年に神山町地方創生戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」を策定した。これによってワーキンググループは49歳以下、男女半々、移住者も半分のメンバーとして素案から参加している。神山町の将来を担う若い人が中心になって取組み、この戦略に記載していることはすべてやり遂げる覚悟で取り組まなければ神山の将来はないとの危機感があり実現するための計画として策定した。この計画を基に確実に実行していった結果が現在に至っていると思われる。

また、神山町には行政とともにこの計画を確実に実行できる組織 NPO 法人グリーンバレーが以前より神山町を拠点に活動していて、そこが核となったことが大きな要因ではなかったかと思う。この組織はアートによるまちづくり推進、サテライトオフィスの誘致、就業・起業支援、移住・定住サポートなど、神山を元気にするための各事業を展開している。このような組織があったから住民、行政などの関係機関が連携できたと思うが、ただ、神山町はかなり前から町民が積極的に町おこしを行ってきた歴史があるためこのように成功事例に繋がったのではと感じる。ほかの町が同じことを行ってもうまくいくとは限らないが、しかし、参考になる部分があるので埴町を将来世代につなぐための施策を考えていくには、有意義な行政視察ではと思われた。

## (2) 委員報告書

別紙のとおり

収受年月日	委員長	事務局長	書記
5.11.13		議員派遣	委員派遣
第 号			

様式 1

調査研修等報告書

令和 5 年 11 月 11 日

議会議長  
委員会委員長 様



提出者 吉村 守広

派遣目的 (調査等 名称)	視察研修		
派遣の 日時	令和 5 年 11 月 6 日～8 日	派遣先 (場所)	徳島県神山町、上勝町
内容	神山町 1. 神山町創生戦略について 2. 移住交流事業について 上勝町 1. 葉っぱビジネスについて		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>・神山町</p> <p>町づくりの取り組みで、全国から注目されている神山町を視察研修した。2004 年に光ファイバー網を町内全世帯に引込み、インターネット環境を整備して都会と田舎の情報格差を解消したことにより、IT 企業中心にサテライトオフィスの開設が進み、これまでに 23 社が進出した。2015 年には、一般社団法人「神山つなぐ公社」が発足した。メンバーは 49 歳以下の若者 28 名で、「まちを将来世代につなぐプロジェクト」を策定した。行政と民間の協働により策定された地方創生戦略であり、可能性が感じられる地域を創造する 7 つの領域を実現するために事業を展開するものであった。町内のバスツアーや、年 2 回の報告会を実施して成果と課題についても意見交換会がされている。</p> <p>移住交流事業のサテライトオフィスの取り組みについては、2007 年移住交流センターを設置し、運営は認定 NPO 法人「グリーンバレー」に委託している。移住定住支援や空き家活用の補助制度を実施している。令和 5 年までに、サテライトオフィス等で働く 214 世帯 369 人が移住している。</p> <p>・上勝町</p> <p>葉っぱビジネス有名な上勝町も視察研修した。JA 職員の横石知二さんがつまものの需要に着目し、1986 年「彩 (いろどり)」の名前で葉っぱの販売を始め注目された。高齢化と過疎化が進行する中、成功のきっかけは、お年寄りに IT システムをつかってもらうとゆう逆転の発想だった。また商品の葉っぱは軽量で扱いやすく、庭先や裏山で採取できお年寄りでも可能な労働環境だったことも成功の要因だったようだ。企画、営業は株式会社いろどりで、販売、出荷全般は JA 東とくしまである。農家 150 件で総売上は 2 億 6 千万円である。これまでに 600 名インターンシップ研修生を受け入れ、30 人は上勝町に移住している。農家の西陰おばあちゃん (86</p>		

歳)にも話を聞いた。楽しく、元気に仕事をされているそうだが、高齢化と人手不足が課題だと話されていた。

どちらの町も IT を駆使して町づくりを行って成功したようだ。埴町でも光ケーブルは整備されているので、もう少し活用方法を考慮すべきだと感じた。また関西方面では、当たり前なことなのかもしれないが研修料金があるのは驚いた。

収受年月日	委員長	事務局長	書記
5・11・22	議 員 派 遣 調 査 根	議 員 派 遣 調 査 根	議 員 派 遣 調 査 根
第 号			

様式 1

研修等報告書

令和 5 年 11 月 22 日

議会議長  
委員会委員長 様



提出者 藤田 一男

派遣目的 (調査等 名称)	総務及び経済委員会合同行政視察研修		
派遣の 日時	令和 5 年 11 月 6 日～8 日	派遣先 (場所)	徳島県神山町、上勝町 外
内容	<p>1. 神山町 1. 神山町創生戦略について 2. 移住交流事業について</p> <p>2. 徳島木のおもちゃ美術館</p> <p>3. 上勝町 1. 葉っぱビジネスについて</p>		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>1. 神山町 大変素晴らしい事業である。行政と町民の結束、そして議会の理解、それにリーダーシップを取る方がいる。我が町に取り入れるには何が必要か？</p> <p>2. 徳島木のおもちゃ美術館 あまり大きい建物ではないが中身が素晴らしい。広大な敷地の中にあり、様々な施設の中の一つであり、県の施設である。入場者の多さにも驚いた。このような施設を町でやろうとしてもとても無理だろう。</p> <p>3. 上勝町 彩事業（葉っぱビジネス） お年寄りの生きがいくくりには素晴らしい事業であると思う。この事業もそうであるが、必ずリーダーシップを取る方がいる、自分を犠牲にして頑張る人がいる。 今回の視察研修を考えると、我が町ではどうだろう。まず、無理に思える。町と議会がじっくりいっていない状況では無理ではないか。 視察研修もよいが、我が町でも実行できそうな所に行くべきではないか。</p>		

收受年月日	委員長	事務局長	書記
5・11・20			
第 号			



調査・研修等報告書

氏名	吉田 克則		提出年月日	令和5年11月20日
調査等名称	総務経済常任委員会合同研修会			
調査等の日時	令和5年11月6～8日	場所	徳島県	
調査等の内容	神山町・上勝町行政視察研修			
意見感想	<p>神山町行政視察研修</p> <p>「雄大な自然に恵まれたロマンの里、神山 四季折々の光と緑に包まれた、空気までおいしいナチュラルリゾート」神山町を観光ガイドに書かれていた文面です。「町の鳥 ヤマドリ」「町の花 うめ」「町の木 神山杉」自然環境を重視した町づくりを進めているようです。高齢化率52% 「神山すだち」日本一の産地とある。移住交流事業サテライトオフィスの取り組みは我が町においても大いに参考になる事業と思われた。特記すべき事項は、山間の急斜面に石垣が沢山ある石積み技術が生活に直結している。石垣の上には生産に欠かせない田畑や住宅地があり石積みの景観が素晴らしく町の歴史を物語っているように思えた。</p> <p>上勝町行政視察研修</p> <p>上勝町の概要、人口が1398人、世帯数734（令和5年11月1日現在）町の面積の88%が山林。 標高100～700m、高齢化率52%、高齢化比率が高い町である。</p> <p>この数字だけを見ると、高齢化、過疎化が進む典型的な限界集落的な町に見えるが、お年寄りが元気で生き活きと働いている。</p> <p>葉っぱビジネスで、年間2億5、6千万円を売り上げ町の産業になっている。葉っぱをトレイパックに詰めて首都圏に出荷をしている。主に高級料亭で料理に添える季節かんあふれる紅葉等、ツマ物として使用しているという。その取り組みは山間地での隠れた資源をビジネスにしたものである。上勝町農協の営農指導員の提案と地域の人々のつながりで事業が成功したもの。当町に自然あふれた資源が沢山ある。我が町も資源活用で産業を興す手がかりになればと感じた。</p>			

埴町議会

收受年月日	委員長	事務局長	書記
5・11・22	議員派遣	委員派遣	調査研修等報告書
第 号	調根		

様式 1

令和 5 年 11 月 19 日

割貝寿一 議会議長  
 総務常任委員会委員長

様



提出者 青砥與藏

派遣目的 (調査等 名称)	徳島県神山町 高速通信網の構築と移住者の確保 徳島県上勝町 葉っぱビジネスの流れ		
派遣の 日時	令和 5 年 11 月 6 日 (月) ~8 日 (水)	派遣先 (場所)	徳島県神山町・上勝町
内容	<p><b>1, 徳島県神山町視察</b></p> <p>日時 令和 5 年 11 月 6 日(月)14:00~        場所 神山町        人口 4820 名 高齢化率 54% 面積 173.30 km<sup>2</sup> 財政力 22%</p> <p>【沿革・視察の目的】        清流鮎喰川の源となっています。年平均気温は 14℃前後、年間降水量は 2,100 ミリメートル前後です。季節によって寒暖の差が大きく、地区によっては冬に数センチの積雪があります。</p> <p>神山町は「神山アーティスト・イン・レジデンス」に代表されるアートプロジェクトに始まり、「ワークインレジデンス」などの移住推進コンセプトや、滞在型の社会人再教育プログラム「神山塾」、ITベンチャー企業等の「サテライトオフィス」開設などを通じ、注目を集めることの多い地域です</p> <p>【デジタル田園都市 移住者交流事業の展開】        2023 年度に開発した地域アプリ「さあ・くる」の導入の背景と具体的な内容、機能の紹介、移住交流支援事業、サテライトオフィス誘致事業は、認定 NPO 法人グリーンバレーが実施主体となっていますが、事業を委託するにあたり町が団体とどう連携、支援しているか、紹介。過疎化やマイカーの普及で赤字経営が続いていた町営バスを廃止し、利用者の「バス停まで遠い」「タクシーは高い」という声を反映させて、タクシー料金助成事業「まちのくるま Let's」導入に至った経緯とシステムの紹介を頂きました。</p> <p>【考察】        高速通信網が整備され、IT 企業が田舎暮らしで事業が行われていた。</p>		

## 2, 徳島県上勝町視察

期 日 令和5年11月7日(火) 13:00~

場 所 上勝町

人口 1408 名 世帯数 738 戸 面積 191.52 km<sup>2</sup> 財政力 12%

### 【沿革・視察の目的】

上勝町は徳島県のほぼ中央の山間部に位置し、豊かな自然に囲まれ、町の至るところに美しい棚田が点在しています。料理に添える「つまもの」の生産を行う「彩(いろどり)」や、特産品の上勝阿波晩茶や柚香(ゆこう)、柚子、すだちなどの香酸柑橘が主な産業です。地形は平地が少なく急峻で大規模農業には向いていません。農業には不利なようにも見える地域ですが、山あいの地形・冷涼な気候、高齢者の知恵があり葉っぱビジネスには最適な場所でした。

### 【葉っぱビジネス事業の展開】

代表取締役社長である横石知二氏が、店にいた女性たちが料理に添えられていた赤い紅葉に感銘を受けているのを見て発端した葉っぱビジネス。1986年につまもの「彩」の販売を開始したことで、葉っぱビジネスは町の新しい産業となり、高齢化が進んでいた町が活性化しました。みかんの栽培が盛んな地域でしたが、1981年の異常寒波により、ほとんどのみかんが枯死し、町の産業は大打撃を受けました。この逆境の中で、当時JA職員だった横石知二さんがつまもの需要に着目し、葉っぱの販売を始めたのです。

ブランド名『彩(いろどり)』として『葉っぱビジネス』がスタートしました。農家が受注・精算・流通は農協、市場分析・営業活動・システム運営は「彩」が行う、三位一体のビジネスです。特徴は、商品が軽量で綺麗であり、女性や高齢者が取り組みやすいことです。

現在では「つまもの」のシェア約80%を占めるまでになっています。その成功の鍵は、お年寄りにITシステムを使ってもらおうという逆転の発想です。徳島県上勝町で誕生したはっぱビジネスは現在、地域の基幹産業となり、参加するメンバー150名の中には年収1,000万円を超えるお年寄りもいます。

### 【考察】

アイデアが数々の企画は海外からも、視察があるようです。翌日54か国目のフランス視察団が予約していました。また、「焼却や埋め立てをせずにごみをゼロにする」ことを目標に掲げ、日本で初めて「ゼロ・ウェイスト」宣言を行った町である。日本で初めてゼロ・ウェイスト宣言をした上勝町。ゼロ・ウェイストとは、無駄・ごみ・浪費をなくすという意味です。町の人々の意識を変え、ものの使い方を変え、暮らしの価値観を変えていったのです。



収受年月日	委員長	事務局長	書記
5.11.21			
第 号	議員派遣 委員派遣	調査	研修

様式 1

調査研修等報告書

令和 5 年 1 1 月 2 1 日

議会議長  
委員会委員長 様



提出者 菊地 哲也

派遣目的 (調査等 名称)	行政視察研修		
派遣の 日時	1 1 月 6、7、8 日	派遣先 (場所)	徳島県神山町、板野町、上勝町
内容	神山町 まちを将来世代につなぐプロジェクト 板野町 徳島 木のおもちゃ美術館 上勝町 葉っぱビジネス (彩事業)		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>○ 神山町 山林が面積の 8 6 % を占める神山町の「まちを将来世代につなぐプロジェクト」の注目するところは仕事を創り出すという移住政策にとって避けては通れない課題に向き合ったことだと思う。2 0 1 6 年の策定メンバーは 4 9 才以下だったそうである。今度できた神山まるごと高専は、5 年制で 1 学年 4 0 名。現在、移住者はこの学生さんが一番多い。移住政策で最も心配なのが地域の人達とのコミュニティだが、「神山つなぐ公社」は町民を対象に 7 2 回もバスツアーを行うなど、移住者と地域の人達がうまく融合出来るように努力している。</p> <p>○ 徳島 木のおもちゃ美術館 からだ全体で感じる木育、多世代交流をコンセプトにした徳島県産材をふんだんに使った美術館である。3 歳未満を対象とした木育ひろばでは親子ずれに微笑ましかったのが印象的だった。</p> <p>○ 上勝町 「葉っぱビジネス」は以前から聞いてはいたが、山へ行って葉っぱ、つまものを採ってくるのかと思っていたら、木を栽培し、収穫し、一枚一枚美しくパックに入れると聞いて、その手間にびっくりした。競争が多いため出荷当日の朝に採り、受注は競争が多いため早い者勝ちだそう。年間 3 2 0 種類におぼる。話を聞いた西蔭さんはゆうに 8 0 才をこえているが受注には PC とスマホを使う。「彩」もやはり高齢化により後継者育成が課題である。また、ゼロウエスト宣言でも注目すべき町である。</p>		

5.11.13	委員長	議員派遣	委員派遣
第 号			

調査研修等報告書

令和 5 年 1 1 月 1 0 日

議会議長  
委員会委員長 様



提出者 鈴木 孝則

派遣目的 (調査等 名称)	総務・経済常任委員会合同視察研修		
派遣の 日時	令和 5 年 1 1 月 6 ~ 8 日	派遣先 (場所)	徳島県神山町
内容	<p>1 神山町創生戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」(つなプロ) 2 移住交流事業・サテライトオフィスの取り組み</p>		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>1 一般社団法人神山つなぐ公社を設立し 2015 年につなプロを策定し 1 既存の組織や枠組みを超えた取り組みを可能にする(横断性)。2 試行錯誤し方向を見いだす(開発生)。3 必要な情報や人材をまちにつなげる(橋渡し)を骨格にすえた。計画の基本方針は人がいる、よい住居がある、よい学校と教育がある、多様な働き方や仕事がある、富や資源が流出していない、安心な暮らしがある、関係が豊かで開かれている。を回しながら発信して好循環を生み出す。</p> <p>そのために必要な施策領域はすまいづくり、ひとづくり、しごとづくり、循環の仕組みづくり、安心なくらしづくり、関係づくりを見える化し望ましい状況を作っていく。</p> <p>住まいでは子育て世代向け集合住宅を、関係性では城西高校神山校や移住者経営のカフェ、サテライトオフィス等を巡る町民町内バスツアー等を行なっている。</p> <p>年二回つなプロ報告会を開催し各事業の進捗状況、新たな取り組みや出来事などを報告している。町民、事業関係者、行政関係者、視察等多様な人が集まり意見交換の場としても機能している。</p> <p>つなプロ策定メンバーは 49 歳以下で多種多様な職種から構成されている。「アイデアとは概にあるものの新しい組み合わせである」を柱にすえ実行する意欲と力のある人が明確に存在することが重要な鍵という。大分前になるが埴町の「町づくりは人づくり」・森巖先生による町づくり講座で学んだことを思い起こした。</p>		

2 2007年移住交流支援センターを設置し、アーティストの長期受け入れを実施していたNPOグリーンバレーに運営を委託した。

センターの支援内容は1, 移住希望者支援として相談の総合窓口業務、物件の提案、案内。契約者への改修補助金などの支援制度の案内やサポート。改修の相談や地元工務店の紹介。規約の手続き支援。契約後の生活インフラ申し込み支援や近隣住民への紹介、挨拶への同行。お試し物件の管理・貸し出し。移住後の各種相談・支援など。

2, 空き物件の開拓では新規物件提供者からの相談に対応し視察・状況確認。所有権や相続状況確認。各地域の支援者と定期的に連絡を取り合い候補物件を開拓。空き家の貸し出しや売却に向け片付け、ゴミの処分、リユースのサポートを行なう。など至れり尽くせり。

令和5年度までに214世帯369人が移住したが関東と近畿が6割を占めている。サテライトオフィスの呼び水となった高速インターネット回線整備は平成16～17(2004)年に地域情報基盤整備事業で10億で実施(佐那河内村4億・神山町6億)。当町と同様地デジIP端末を整備している。ケーブルテレビ方式なので地デジ・IP電話、ネット接続込みで月2500円である。2012年に縫製工場を地方創生テレワーク交付金事業(国庫補助4分の3)3850万でリノベーションし神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックスを開設し現在14事業者、4個人と契約中で2015年には一般の宿泊も可能なサテライトオフィス体験宿WEEK神山が開所した。

神山町の視察で感じたこと。

場当たり、思いつき、付け焼き刃、単発的、近視眼ではなく、将来を見据えた俯瞰的でコンバインドな施策が見事に開花した一例と思う。